

YOTUKA

取扱説明書 初版

エンジン自走式除雪機

YS-SB15RCC

初めてお使いになる方、他社製品を使用し慣れている方

ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みになり、
内容を理解してからお使いください。

燃料 無鉛レギュラーガソリン



エンジンオイルは
入っていません。



WEB でチェック！

最新の取説及び
本製品の操作の仕方な
どをご覧ください。



 HAIGE

目次

はじめに	3
安全上のご注意	3
製品を長くご愛顧いただくために	3
安全にお使いいただくために	4
除雪機に係る安全事項	4
除雪機の作業に係る安全事項	5
各部の名称	6
主要諸元	7
梱包部品一覧	8
組立て	9
操作パネルハンドルの取付け	9
シュータの取付け	10
変速ロッドの取付け	11
シュータデフレクタワイヤの取付け	12
走行クラッチワイヤの取付け	14
除雪クラッチワイヤの取付け	15
タイヤ・クローラー切替レバー／左旋回レバーの取付け	16
右旋回レバーの取付け	17
ソリの取付け	18
アクセルボックスの取付け	18
バッテリーアース線の接続	19
スイッチの配線	19
各部の取扱い	20
セルスターター	20
リコイルスターター	20
雪かき棒	20
変速レバー	21
旋回レバー	21
シュータデフレクタレバー	21
シュータ方向調整ハンドル	21
走行クラッチレバー	22
除雪クラッチレバー	22
アクセルレバー	22
タイヤ・クローラー切替レバー	23
ソリ	23
緊急停止キー（セーフティーキー）	24
燃料コック	24
燃料ポンプ	24
チョークレバー	24
ヒートハンドルスイッチ	24

運転前の点検	25
エンジンオイルの給油	25
燃料の給油	26
オーガ・ブロアの点検	26
ギヤケースの点検	27
シュータの点検	27
走行クラッチ・除雪クラッチの点検	27
各部の緩みやガタツキの点検	27
各部の異音の点検	27
排気状態の点検	27
運転操作の仕方	28
エンジンのかけ方（セルの場合）	28
エンジンのかけ方（リコイルの場合）	30
エンジンの止め方	30
移動の仕方	31
除雪作業の仕方	32
除雪作業の停止	33
シュータに雪が詰まった場合	34
固い雪に除雪部が乗り上げた場合	34
湿った雪を除雪する場合	34
積雪量が多い場合	34
除雪時に、エンジンの回転数が落ちた場合	34
サイドカッターによる除雪の仕方	35
点検・整備の仕方	36
エンジンオイルの点検・交換	36
燃料の抜取り	38
点火プラグの点検・整備	38
クローラーの点検・整備	39
グリス・潤滑油の塗布	40
ベルト周りの点検	40
タイヤ・クローラー切替レバーのワイヤの張り調整	41
変速ロッドの調整	41
走行・除雪クラッチワイヤの張り調整	42
シュータデフレクタワイヤの張り調整	42
オーガ・ブロアの点検	42
シャーボルトの点検	43
バッテリーの点検・充電・交換	44
バッテリーの保管	45
ヒューズの交換	45
ヒートハンドルのヒューズの交換	46
長期間使用しない時	47
故障かな？と思ったら	48
保証内容について	51

はじめに

このたびはエンジン自走式除雪機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。
この取扱説明書を熟読しご理解してからご使用ください。
また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。



警告

誤った取扱をした時に、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。



注意

誤った取扱をした時に、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつくもの。



禁止

取扱においてその行為を禁止します。



指示

指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。

注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

除雪機に係る安全事項



警告



禁止

- ・本機は、除雪をする機械です。指定された用途以外には使用しないでください。
- ・燃料の臭いがする場合、運転をしないでください。爆発の危険があります。
- ・エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、弊社の保証サービスは一切受けられなくなります。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。
- ・運転中に回転部及び可動部に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。
- ・運転中は絶対シュータやオーガハウジングを覗き込まないでください。
- ・点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料蒸気へ引火する恐れがあります。
- ・デッドマンクラッチを紐などで固定しないでください。



指示

- ・周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。
- ・給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- ・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
- ・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。
- ・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- ・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- ・燃料タンクキャップは確実に閉めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
- ・始動前点検を実施してください。
- ・本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
- ・可動部分の位置及び締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他動作に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
- ・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。
- ・エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。
- ・クラッチレバーを握っていない時は、オーガが回転していないことを確認してください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので注意してください。
- ・使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・回転しているオーガに接触すると負傷または死亡する恐れがあります。
- ・点検整備を行なう場合はエンジンを停止してください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラー部のほか点火プラグの温度も高くなっており、やけどの恐れがあります。
- ・破損した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ・修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故・怪我の原因になることがあります。
- ・自動車で運搬する時は、燃料タンクの燃料を抜き、燃料コックを閉じてください。振動等により燃料が漏れることがあります。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- ・子供の手の届かない安全な場所に保管してください。
- ・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよくご理解の上で使用ください。

安全にお使いいただくために

⚠ 注意



禁止

- 古い燃料は使用しないでください。
- 安全保護装置であるガード及びカバーを取外して運転をしないでください。



指示

- 燃料は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- 定期的にエンジンオイルを交換してください。
- 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- 使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
- 部品交換は、純正部品を使用してください。
- 定期点検整備を行ってください。

除雪機の作業に係る安全事項

⚠ 警告



禁止

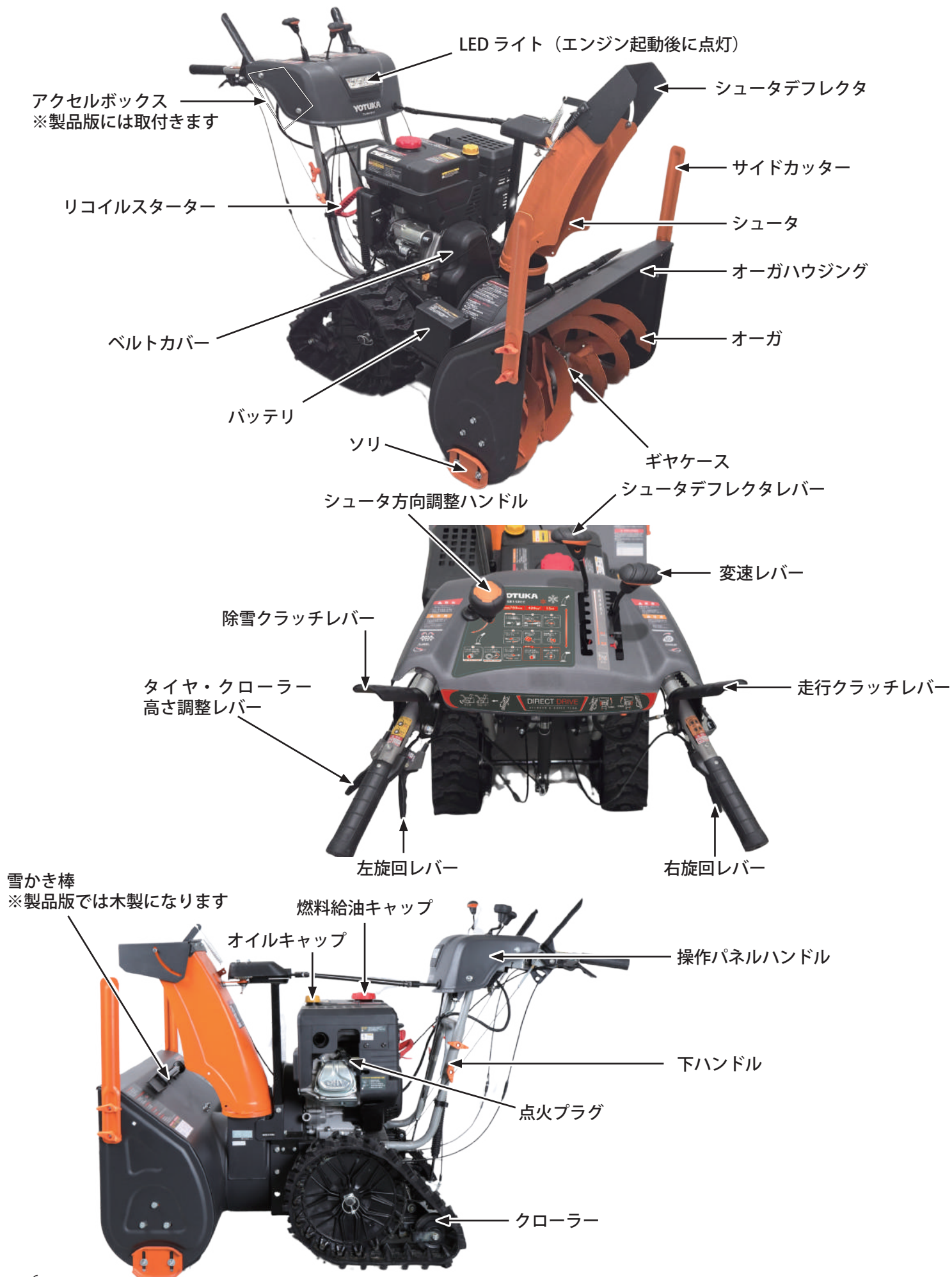
- 身体の調子が悪い時や、判断力に影響するような酒類、薬物を服用している時は、使用しないでください。
- 夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。
- 運転中に高圧コードや点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。
- ご使用時は、使用者から 15m 内は危険です。人やペットが入らないようにしてください。
- 運転区域には、全ての人、幼児、子供、ペット等を入れないでください。
- 人にシュータやシュータデフレクタを向けないでください。また、除雪機の前方に人を入れないでください。
- 足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
- 砂利道は石が飛び出すなど危険です。除雪しないでください。
- 雪の中に石が混入していると遠くまで飛ぶ事があるので十分注意してください。
- オーガやシュータや顔や手足、衣服などを近づけないでください。
- 傾斜面を横切って除雪しないでください。
- 坂道での除雪や停車はしないでください。
- 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
- 可動部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。
- エンジンがかかっている状態で本機から離れないでください。
- 走るような操作はしないでください。
- 滑りやすい表面上では、高速で除雪機を運転しないでください。



指示

- 雪が降る前に運転区域内の木片、缶、ホース、線材、ナワ及びその他の異物等をすべて除去してください。
- ハンドルをしっかり握り、正しい姿勢で作業をしてください。
- 運転中は、排気ガスに十分注意してください。
- 建物、自動車及び破損の恐れがある建造物の周囲で除雪をする時は、それらの方向に排出された雪が当たらないようシュータの方向、シュータデフレクタの角度を調整して運転をしてください。
- 停止中でも、オーガに触れないでください。怪我をする恐れがあります。
- 適切な時期に休憩をとってください。
- 万一に備え、救急箱、タオル、外部連絡用電話を用意してください。
- 本機から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。
- 移動する時は、オーガの回転を止めてください。
- 危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- 除雪部が異物に突き当たったり、巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、除雪機が損傷していないかを調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ除雪機を再始動しないでください。
- オーガハウジングやシュータなどに詰まった雪を取除く時は、エンジンを停止し、誤ってエンジンがかからないようにしたうえで、回転が完全に止まった後に、雪かき棒を使って取除いてください。
- 滑りにくい靴、手袋、保護メガネ、保護帽などの作業に適した服装を心掛けてください。
- 坂道の走行には注意してください。
- 後方へ走行する時は、足元及び背後の障害物に十分注意し、転倒したり障害物に挟まれないように運転してください。
- 除雪時は操作に集中し、特にバック時は、滑らないよう足元にご注意ください。
- 除雪機を輸送したり、使用しない時、停止する時は、オーガハウジングを接地させてください。

各部の名称

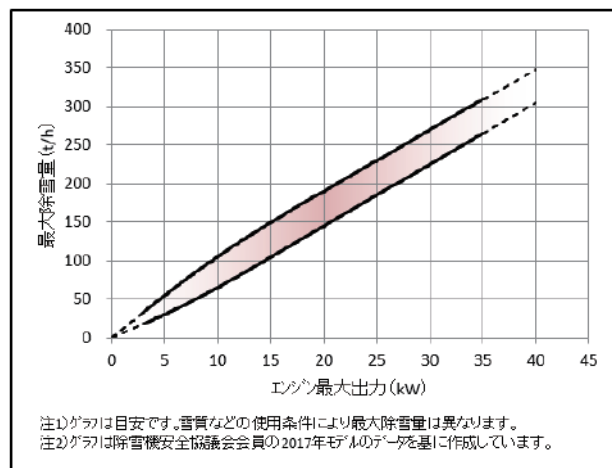


主要諸元

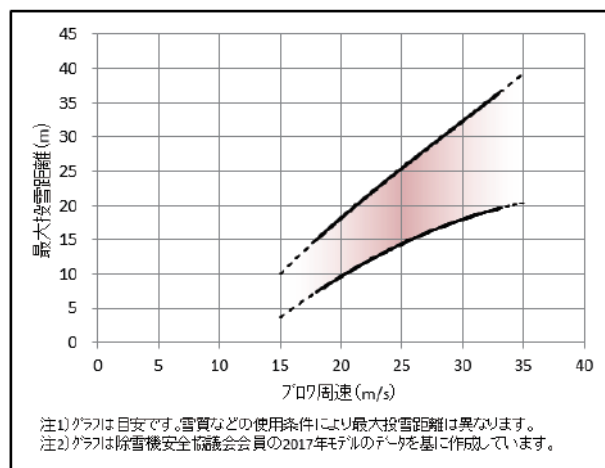
モデル名	YS-SB15RCC
除雪幅	760mm
除雪高	545mm
ブロワ周速	22m/s
投雪方向	190°
投雪距離	最大 15m
変速機	前進 6 速、後進 2 速
エンジン型式	Loncin LC190FDS
馬力	15HP
総排気量	420cm ³
エンジン出力	9.0kW
始動方法	リコイルスターター／セルスターター
シュータ操作	手動ハンドル (操作パネル)
操作ハンドル	両手 (片手自走、片手除雪)
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃費	1.57 L/h ※エンジン単体無負荷状態
駆動タイヤ	クローラー
燃料タンク容量	5.5L
エンジンオイル	SAE 5W-30
エンジンオイル容量	1.1L
重量	135kg
サイズ (幅×奥行×高さ)	最大約 1750 × 835 × 1130mm (サイドカッターを伸ばした状態)

◎ハイガーは、顧客満足度 100%を目指し、日々製品 (部品やカラーも含め) の改良を行っています。
 そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
 また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

【最大除雪能力】



【最大投雪距離】



梱包部品一覧

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
2. 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。
不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。

警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

<p>A. 本体★</p> 	<p>B. 操作パネルハンドル</p> 	<p>C. ワイヤクリップ × 2</p> 
<p>E. シュータと取付けボルト × 2</p> 	<p>F. 変速ロッド</p> 	<p>D. ソリ</p> 
<p>H. 緊急停止キー（セーフティーキー）</p> 	<p>I. プラグレンチ</p> 	<p>G. セルスターターキー</p>  <p>J. 工具★★</p> 

※製造時期により仕様変更になる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。

★製品版は木製の雪かき棒を付属しています。

★★付属の工具は、簡易的なものです。

市販のペンチ、プライヤー、スパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

組立て

警告

- エンジンスイッチを「OFF」にし、作業を行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- 組立後は、すべての部品が確実に取付いていることを確認してください。

注意

作業には工具を使用します。必ず用途やサイズの合ったものを使用し、自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。

★付属の工具は、簡易的なものです。
市販のペンチ、プライヤー、スパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

操作パネルハンドルの取付け

下ハンドルに操作パネルハンドルを取付けます。

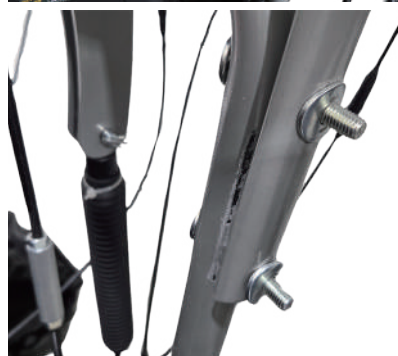
注意

作業は2人以上で行ってください。

- 1 予め下ハンドルの取付位置にセットしている左右2カ所ずつのノブナット、ボルト、ワッシャを一旦取外します。



- 2 操作パネルハンドルの取付穴と下ハンドルの取付穴を合わせ、内側からボルトを通して、外側からワッシャを通します。



- 3 外側からノブナットをしっかり締付けます。



組立て

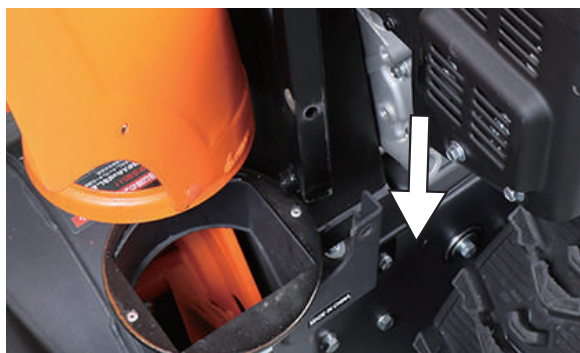
シュータの取付け

シュータを本体に取付けます。

- 1 回転棒を操作パネルの前面の穴に挿込んで、操作パネル裏の穴に回転棒を通します。



- 2 シュータを本体のシュータ取付部に載せ、固定棒をシュータ取付部横の穴に挿込みます。



- 3 付属のボルト、ナット、ワッシャを取付穴に挿し込んで、締付けます。



組立て

変速ロッドの取付け

変速ロッドを本体に取付けます。

- 1** 変速ロッドの両先端は、下記写真のようになっています。

①側を本体に取付けます。

②側はハンドル側に取付けます。

①本体側 ②ハンドル側



- 2** 変速ロッドの両端に予め留められている割リピンを抜きます。割リピンを抜く際、ワッシャ、スプリングが外れやすいため、紛失しないよう注意してください。

- 3** 変速レバーを後進 2 速「R2」の位置に合わせます。



- 4** 【本体側への取付】変速ロッドの①にスプリングを通し、本体下側のアームの取付穴に入れ、裏からワッシャを通し、割リピンで固定します。

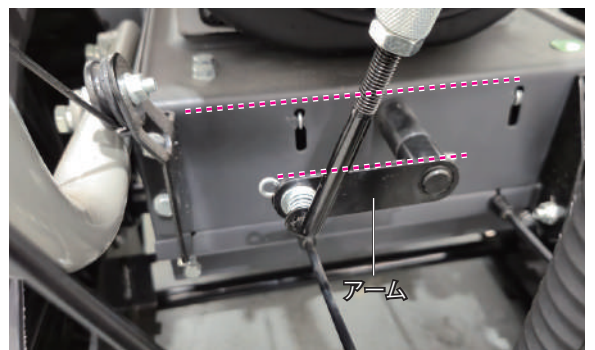


- 5** 【ハンドル側への取付】変速ロッドの②を本体の変速レバーの下にあるアーム取付穴に左側から入れ、右側からワッシャを通し、割リピンで固定します。



- 6** 変速レバーを操作し、前進 6 速、後進 2 速の変速ができることを確認します。

- 7** 変速レバーを「前進 1」に合わせた時に、本体下側のアームが水平になっているか確認します。変速ロッドの調整は、P.41 の「変速ロッドの調整」を参照ください。



組立て

シュータデフレクタワイヤの取付け

シュータデフレクタワイヤをシュータに取付けます。

- 1** 操作パネルのシュータデフレクタレバーを前方に押します。



- 2** 操作パネルから出ているシュータ方向調整ワイヤをシューター側に配線します。



- 3** シュータデフレクタワイヤの先端部分を、シュータデフレクタ横のフックに引っかけます。



- 4** シュータデフレクタを手で押して、ワイヤが緩んだ状態で、シュータデフレクタワイヤのワイヤ部分を、シュータデフレクタの固定ガイドにはめ込みます。

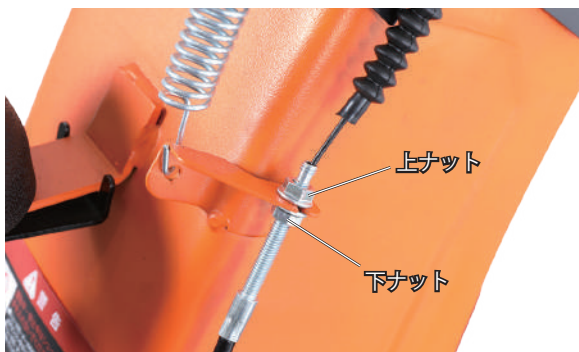


組立て

- 5** 手で押していたシュータデフレクタをゆっくりと放すと、ワイヤーが張るので、ボルト部分を固定ガイドに通します。



- 6** シュータデフレクタを押さずにワイヤーが張っている状態で、下ナットを締め、最後にスパナで締付けてから上ナットを締めてワイヤーを固定します。



- 7** シュータデフレクタワイヤーを写真の白い線のように、燃料タンクとマフラーの間に通します。



- 8** 燃料タンクとマフラーの間にあるロッドの穴に結束バンド等を通し、シュータデフレクタワイヤーを固定します。



- 9** シュータデフレクタレバーを操作し、シュータの角度が変わるか確認します。



- 10** シュータデフレクタの角度が変わらない場合は、ワイヤーの調整が必要になります。P.42の「シュータデフレクタワイヤーの張り調整」を参照ください。

組立て

走行クラッチワイヤの取付け

走行クラッチワイヤをハンドルに取付けます。

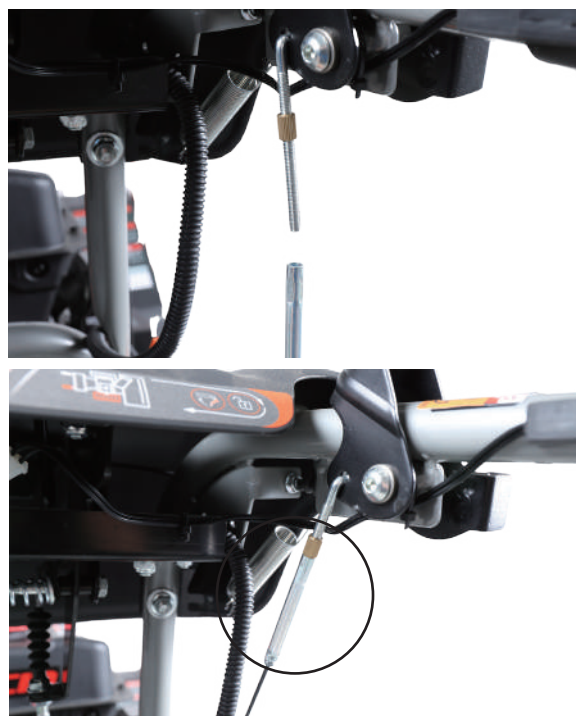
- 1** 本体右下から出ている走行クラッチワイヤの先端のフック部分を一旦取外します。



- 2** 先端のフックを走行クラッチレバーの穴に挿し込み、走行クラッチレバーを上上げます。



- 3** 手順1で取外したアジャスターと接続します。下の長ネジを締めると張りが強くなります。ある程度張ったら上側の金色のナットを締めます。



- 4** 走行クラッチレバーを握った時に多少の抵抗があり、無理なく握れるか確認します。この段階では、この程度の調整にします。硬すぎるとワイヤが切れる原因になります。



- 5** 試運転する際に走行クラッチワイヤを調整します。走行クラッチワイヤの調整は、P.42の「走行・除雪クラッチワイヤの張り調整」を参照ください。

組立て

除雪クラッチワイヤの取付け

除雪クラッチワイヤをハンドルに取付けます。

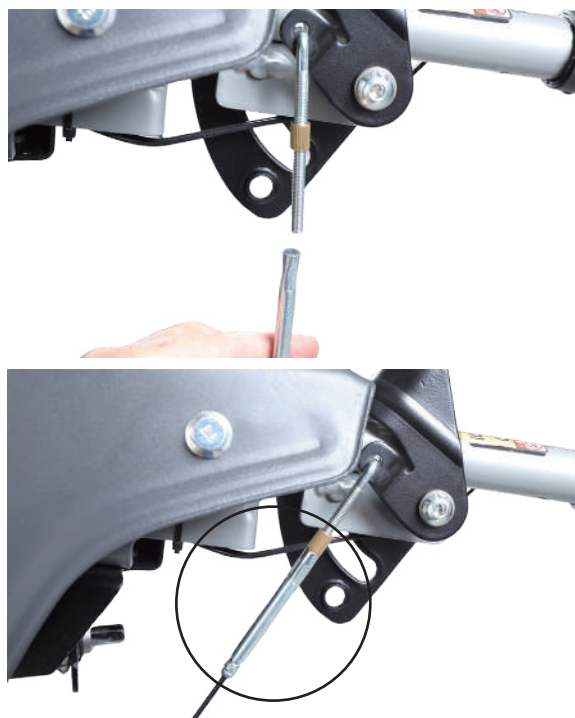
- 1** 本体左下から出ている除雪クラッチワイヤの先端のフック部分を一旦取外します。



- 2** 先端のフックを除雪クラッチレバーの穴に挿し込み、除雪クラッチレバーを上上げます。



- 3** 手順1で取外したアジャスターと接続します。下の長ネジを締めると張りが強くなります。ある程度張ったら上側の金色のナットを締めます。



- 4** 除雪クラッチレバーを握った時に多少の抵抗があり、無理なく握れるか確認します。この段階では、この程度の調整にします。硬すぎるとワイヤが切れる原因になります。



- 5** 試運転する際に除雪クラッチワイヤを調整します。除雪クラッチワイヤの調整は、P.42の「走行・除雪クラッチワイヤの張り調整」を参照ください。

組立て

タイヤ・クローラー切替レバー／左 旋回レバーの取付け

タイヤ・クローラー切替レバーを左ハンドルに取付けてからロッドに取付けます。



- 1** レバーに付いているナットを一旦取外します。



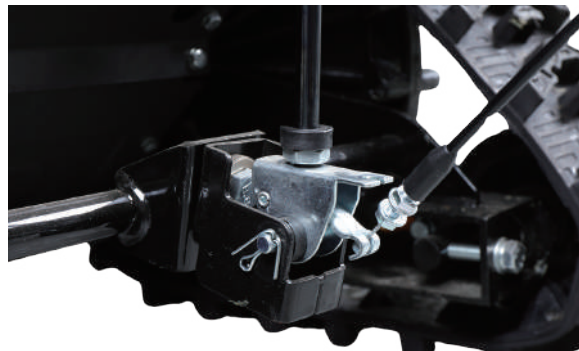
- 2** 左ハンドルの取付穴に下からボルトを挿込みます。



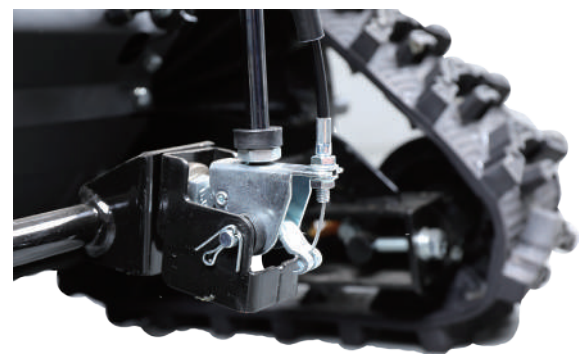
- 3** 手順 1 で取外したナットを付属のスパナで閉めます。

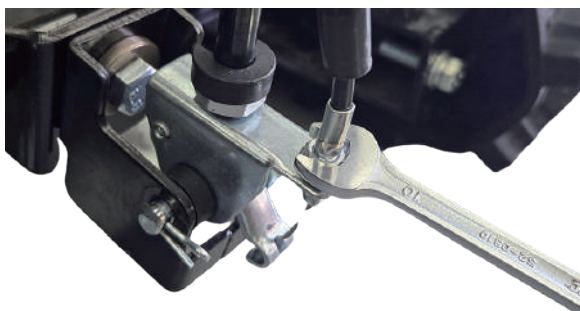


- 4** タイヤ・クローラー切替レバーから出ているワイヤをロッド下のフックに引っかけます。



- 5** ワイヤを上を持ち上げステーに通し、10mm のスパナでナット締付けます。





6 ゴムカバーを下に降ろします。



右旋回レバーの取付け

右旋回レバーを右のハンドルに取付けます。



1 右旋回レバーのネジを一旦取外します。
この時、中のナットが穴からずれやすくなっていますのでご注意ください。



2 中のナットがずれていたら直し、ハンドルの取付穴にネジを挿込み、ドライバーで締付けます。



組立て

ソリの取付け

ソリをオーガハウジングに取付けます。

- 1 ソリに付いているボルト、ワッシャ、ナットを一旦取外し、ボルトをオーガハウジングの内側から通します。外側からそりを取付けます。



- 2 ソリを挟んで、ワッシャ、ナットを 13mm のスパナでしっかり締めます。(ソリの調整は P.23 参照)

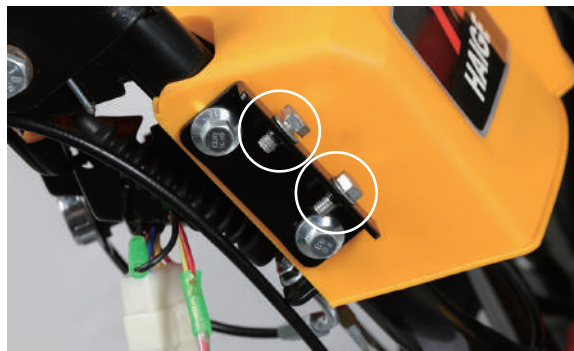


アクセルボックスの取付け

操作パネル横のステーにアクセルボックスを取付けます。

本手順は HG-K1101Q のアクセルボックスの取付手順で説明します。製品版と異なる場合があります。

- 1 取付ステーのボルトを一旦取外します。



- 2 アクセルボックスを取付け 10mm のスパナでボルトを締付けます。



組立て

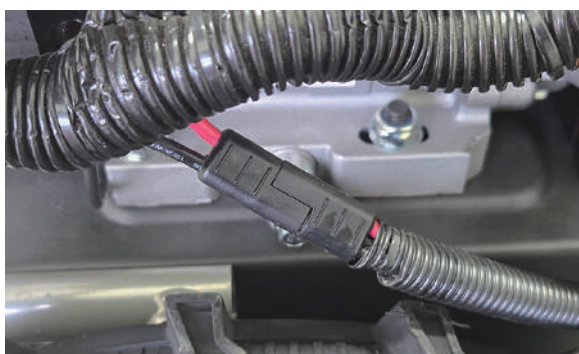
バッテリーアース線の接続

バッテリーアース線を本体に接続します。
ハンドルの操作パネルから出ているコードとエンジンスイッチから出ているコードを繋ぎます。
コードが接続済みの場合、この手順は不要です。

- 1 セルスターターのエンジンキーを抜きます。



- 2 コネクタを接続します。



スイッチの配線

ハンドルの操作パネルから出ているコードとエンジンスイッチから出ているコードを繋ぎます。

- 1 セルスターターのエンジンキーを抜きます。



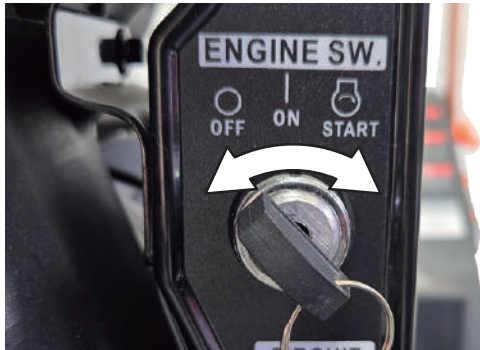
- 2 操作パネルから延びているコネクタとセルスターターボックスの下から延びているコネクタを接続します。



各部の取扱い

セルスターター

セルスターターでエンジンを始動することができます。



OFF

エンジンを停止する位置です。
※キーの抜き取り、挿込みができます。

ON

エンジン運転中の位置です。
※キーの抜き取りはできません。

START

エンジンをかける際は、この位置にします。セルスターターモーターが回り、キーから手を放すと自動的に「ON」の位置に戻ります。

⚠注意

- セルスターターモーターを連続で5秒以上回転させないでください。バッテリー上がりの原因になります。
- エンジンが停止した状態で、長時間「ON」位置で放置しないでください。バッテリー上がりの原因になります。

リコイルスターター

リコイルスターターでもエンジンを始動することができます。



1 セルスターターを「ON」の位置まで回します。
(P.30 参照)

2 リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真つすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰返します。

⚠注意

- リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- 一度に6回以上は引張らないでください。
- 引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。
- 運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。

雪かき棒

オーガやシュータに詰まった雪や付着した雪を取除く時に使用します。



⚠警告

回転部に詰まった雪や付着した雪を取除く時は、エンジンスイッチを切り、各部が完全に停止してから行ってください。

各部の取扱い

変速レバー

前進（6速）、後進（2速）の切替えができます。



レバーを前進側（奥）

前進スピードは6段階で、数字が大きくなるほどスピードが上がります。

レバーを後進側（手前）

後進スピードは2段階で、数字が大きくなるほどスピードが上がります。

⚠ 注意

- 変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- 走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

旋回レバー

走行中に握ると除雪機が旋回します。



右旋回レバーを握る 右へ旋回します。

左旋回レバーを握る 左へ旋回します。

シュータデフレクタレバー

投雪角度を調整します。



レバーを奥

シュータデフレクタは下向きになり、投雪距離が短くなります。

レバーを手前

シュータデフレクタは上向きになり、投雪距離が長くなります。

シュータ方向調整ハンドル

ハンドルを回すことで、投雪方向を190°の範囲で調整することができます。



⚠ 注意

シュータに雪が詰まった状態で、シュータ方向調整ハンドルの操作を行わないでください。破損の原因になります。

各部の取扱い

走行クラッチレバー

除雪機を走行させる時に走行クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）を握ります。



レバーを握る

除雪機が走行します。

レバーを放す

除雪機が停止します。

除雪クラッチレバー

オーガを回転させる時に除雪クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）を握ります。

除雪クラッチレバー



レバーを握る

オーガが回転します。

※レバーを握りながら走行クラッチレバーを握るとロックされます。走行クラッチレバーを放すと解除されます。

レバーを放す

オーガが停止します。

⚠ 注意

走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを握ったまま、変速レバーの操作は絶対に行わないでください。変速輪クッションの破損の原因になります。

アクセルレバー

運転中に操作するとエンジンの回転数が変わります。



※本体側のアクセルレバーは、手元のアクセルレバーが故障等した場合に使用する補助的なものです。通常は使用しません。また、手元のアクセルレバーと連動もしていません。

レバーを「かめ」側

エンジンの回転数が下がります。

レバーを「うさぎ」側

エンジンの回転数が上がります。

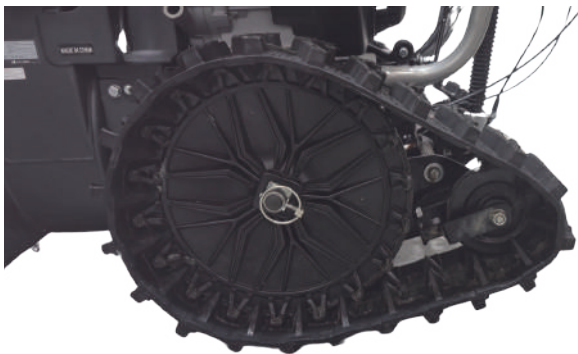
各部の取扱い

タイヤ・クローラー切替レバー

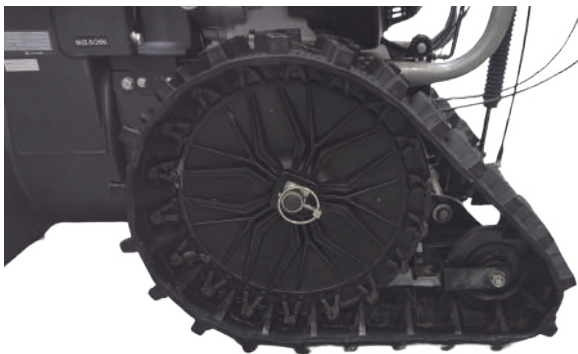
レバー操作で、タイヤ仕様になったり、クローラー仕様になったりします。タイヤ仕様の場合は小回りがきき、クローラー仕様の場合はグリップ力が増します。雪の深さに合わせて高さを調節することで、効率の良い除雪が可能です。また、移動時は一番高くすると簡単に移動することができます。



タイヤ仕様



クローラー仕様



レバーを握る

レバーを握りながらハンドルを押し下げること
で、オーガハウジングが上がります。

そのままレバーを放すとロックされ、タイヤ仕
様になります。

もう一度レバーを握る

もう一度レバーを握るとロックが解除され、ク
ローラー仕様になります。

ソリ

ソリは、高さを調整することで路面状況にあった除雪
ができます。

1 オーガハウジング高さ調整レバーでハウジングを
最大に上げた位置にします。

2 ソリのボルトを緩め、最適な高さに調整します。



	オーガハウジング下端と 路面の隙間
砂利などが 多い路面	広くする
普通路	5mm 程度
圧雪路	狭くする

⚠注意

オーガハウジング下端と路面の隙間を狭くし過ぎ
ると、オーガの摩耗が早くなったり路面を傷付け
たりすることがあります。

また、オーガの回転が路面に伝わり、除雪機が前
に進むことがあります。

各部の取扱い

緊急停止キー（セーフティーキー）

緊急時には「緊急停止キー（セーフティーキー）」を抜くことでエンジンを停止させることができます。「緊急停止キー（セーフティーキー）」を操縦者のベルトなどに紐で繋いでおくと、万が一の転倒などの際にキーが抜け、エンジンを停止させます。（P.29 参照）



燃料コック

コックを横にするとエンジンに燃料が供給されます。



燃料ポンプ


燃料ポンプを2～3回軽く抵抗を感じる程度まで押すことで、燃料をキャブレターに行きわたらせます。（初回のみ）

⚠️ 注意

押しすぎるとエンジンが始動しません。




チョークレバー

エンジンが冷えている時は、チョークマークに合わせます。



⚠️ 注意

エンジン始動後は、チョークマークに戻してください。

ヒートハンドルスイッチ

操作パネル下のスイッチを右側に押すとハンドルが暖かくなります。左側に押すと停止します。



⚠️ 注意

エンジンが停止した状態で、セルスターターを「運転」位置にし、ヒートハンドルのスイッチをON状態にしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

運転前の点検

警告



禁止

- ・ エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・ 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・ 運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・ ハイオクガソリンは使用しないでください。



指示

- ・ 燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・ 燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・ 燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・ 燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・ 燃料キャップは確実に締めてください。
- ・ 長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜取り、火気のない所に保管してください。
- ・ 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

エンジンオイルの給油

工場出荷時、エンジンオイルは入っていません。
下記要領で給油してください。

1 エンジンオイルを準備します。

推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	1.1L

2 本体を水平な場所に移動させます。

3 オイル給油キャップを取外し、オイルゲージを布などで拭取ります。



4 エンジンオイルを給油します。

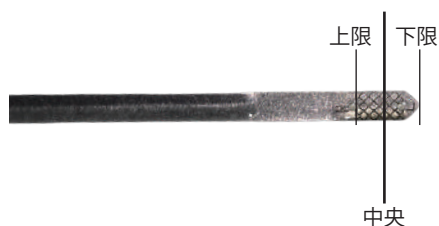


注意

エンジンテストを行っているため、多少オイルが残っている場合があります。オイルゲージを確認しながら少しずつ給油してください。

5 オイル給油キャップを取付け一旦締付け、再度取外します。

6 オイルがオイルゲージのオイル量範囲(中央)まであるか点検します。



運転前の点検

- 7 オイル量は、下部オイル給油キャップに付いているオイルゲージでも確認できます。



適正量はゲージの中央です。

- 8 確認後、オイル給油キャップを確実に閉めてください。
- 9 使用2回目以降、運転前に必ずエンジンオイル量や汚れを点検してください。

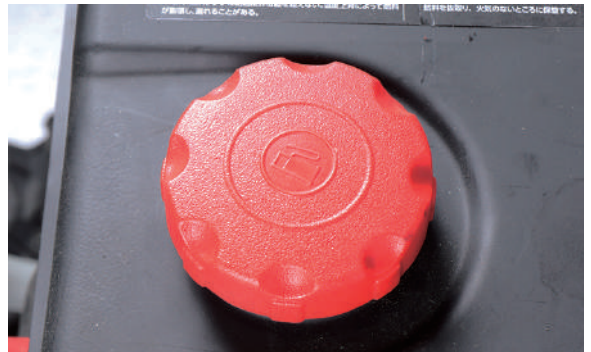
燃料の給油

工場出荷時、燃料は入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 燃料を準備します。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク	5.5L

- 2 燃料給油キャップを開け、満タンレベルゲージ上限(赤い目印)を超えないように給油します。

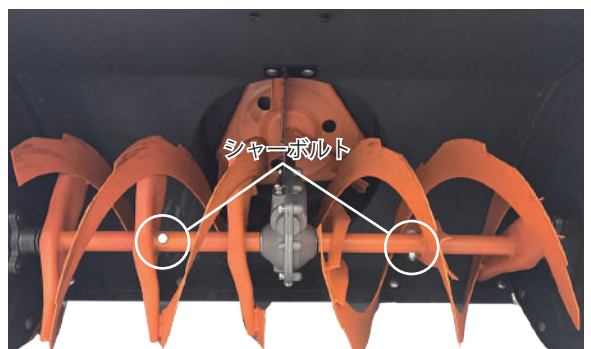


満タンレベルゲージ

- 3 給油後、給油キャップを確実に閉めてください。

オーガ・ブロアの点検

凍結や曲がり・変形・欠け・異物をはさまっていないかを点検します。
また、シャーボルトが折れていないかを点検します。



運転前の点検

ギヤケースの点検

ギヤケースにはグリスが入っています。20 時間毎にグリスを入れてください。(P.40 参照)

※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。



シュータの点検

シュータデフレクタレバーとシュータ方向調整レバーを操作し、不具合がないか点検します。



走行クラッチ・除雪クラッチの点検

エンジン始動後、走行クラッチ（デッドマンクラッチ機構）と除雪クラッチ（デッドマンクラッチ機構）を操作し、「走行」「回転」「停止」するか点検します。



各部の緩みやガタツキの点検

各部の緩みやガタツキがないか点検します。ボルト、ナット等の緩みであれば締付けます。不具合の箇所が分からない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



警告

不具合があったまま使用しないでください。
重大な事故に繋がります。

各部の異音の点検

エンジン始動後、エンジン、その他の部位から異音がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



警告

異常を感じたまま使用しないでください。
重大な事故に繋がります。

排気状態の点検

エンジン始動後、排気に異常がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



警告

異常を感じたまま使用しないでください。
重大な事故に繋がります。

運転操作の仕方

警告

- 燃料の臭いがする場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。
- 触れるとやけどをすることがありますので注意してください。
- 運転中に回転部及び可動部に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。
- 周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。

エンジンのかけ方(セルの場合)

燃料ポンプ 緊急停止キー (セーフティーキー)



チョークレバー 燃料コック

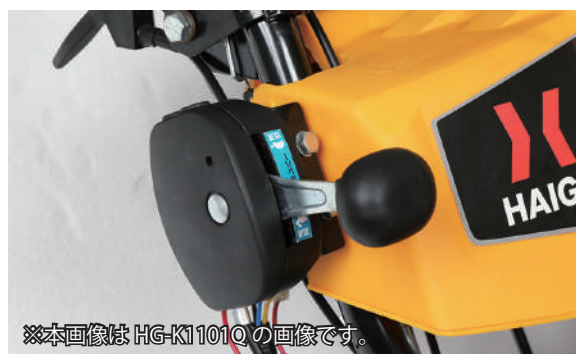
注意

エンジンをかける際は、走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握らないでください。

- 1 変速レバーを「前進 1」にします。



- 2 アクセルレバーを「かめ」と「うさぎ」マーク中央にします。



※本画像はHG-K1101Qの画像です。

- 3 燃料コックを横向き「ON」にします。



- 4 チョークレバーをチョークマーク\|にします。



運転操作の仕方

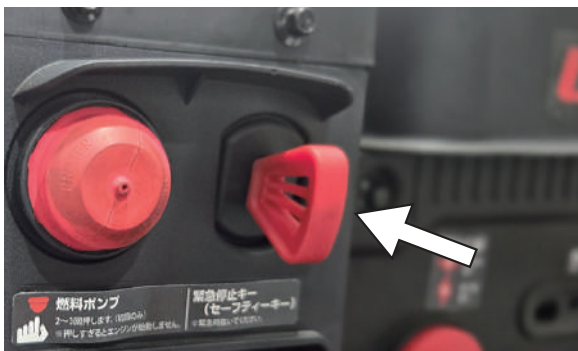
- 5 燃料ポンプを2～3回軽く抵抗を感じる程度まで押します。(初回のみ)

⚠️ 注意

押しすぎるとエンジンが始動しません。



- 6 緊急停止キー（セーフティーキー）を奥まで挿込みます。



⚠️ 注意

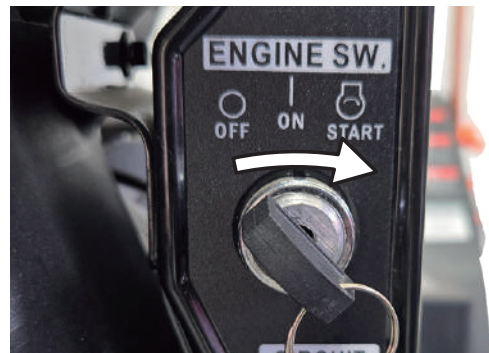
緊急停止キー（セーフティーキー）は、奥まで確実に挿入してください。
確実に挿入されていないとエンジンは始動しません。

🔗 ワンポイント

緊急停止キー（セーフティーキー）の穴に紐を取付け、除雪作業の邪魔にならない長さでベルト等に結び付けます。万が一の転倒などの際に、緊急停止キー（セーフティーキー）が抜け、エンジンを停止させます。



- 7 セルスターターを「START」の位置まで回すとエンジンが始動します。始動したらキーから手を放すと自動的に「ON」の位置に戻ります。



- 8 エンジン始動後、異常がなければチョークレバーをチョークマークIIIに戻します。



⚠️ 注意

エンジン始動後は、チョークレバーを必ずチョークマークIIIに戻してください。

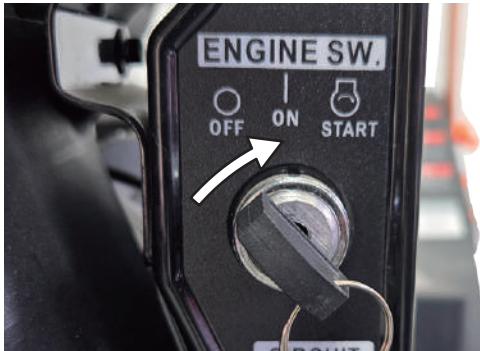
運転操作の仕方

エンジンのかけ方(リコイルの場合)

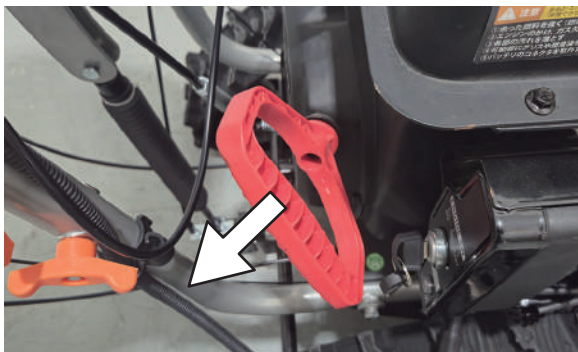
万が一セルによるエンジンがかからない場合は、リコイルスターターでかけることができます。

P.28の「エンジンのかけ方(セルの場合)」の手順1～6まで同じです。

- 1 セルスターターを「ON」の位置まで回します。



- 2 リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真つすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰返します。



⚠ 注意

- ・リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- ・一度に6回以上は引張らないでください。
- ・引いたリコイルスターターは途中で放さず、ゆっくり戻してください。
- ・運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。また、除雪クラッチレバーを握りながら、引っ張らないでください。

- 3 エンジン始動後、異常がなければチョークレバーをチョークマークIIIに戻します。



⚠ 注意

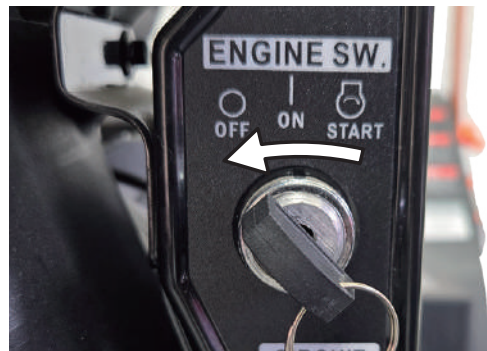
エンジン始動後は、チョークレバーを必ずチョークマークIIIに戻してください。

エンジンの止め方

- 1 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放し、変速レバーを「前進1」にします。

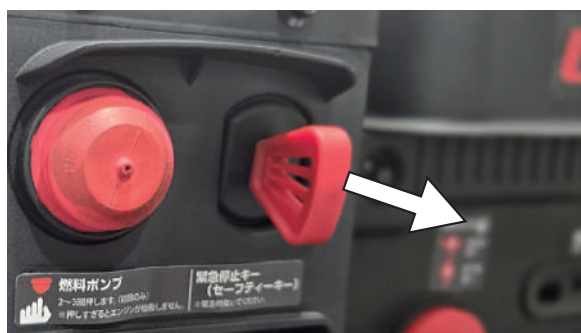


- 2 セルスターターを「OFF」の位置まで回します。



運転操作の仕方

- 3** 緊急停止キー（セーフティーキー）を抜きます。



- 4** 燃料コックを縦向き「OFF」にします。



⚠️ 注意

除雪機は、水平な場所に駐車してください。

移動の仕方

- 1** P.28 を参照にエンジンを始動します。
- 2** 除雪クラッチレバーは握りません。
- 3** タイヤ・クローラー切替レバーでどちらか移動しやすい方を選択します。



タイヤ仕様



クローラー仕様



- 4** 変速レバーを最適な速度の位置にします。



⚠️ 注意

- 変速レバーの操作は、走行クラッチレバーを放してから行ってください。
- 走行クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

- 5** 走行クラッチレバーをゆっくり握ります。（走行しない場合は P.42 参照）



- 6** 手動で移動する場合は、左右の旋回レバーを握るとクローラーのロックが解除され、移動が可能となります。

運転操作の仕方

警告

- シュータを人や自動車、建物に向けないでください。
- オーガに異物が巻付いた時は、エンジンをすぐに停止し、異物を取除いてください。
- 除雪機に破損がないが確認し、破損が確認された場合は完全に修理してからご使用ください。

除雪作業の仕方

- 1** ソリでハウジングを最適な高さに調整します。(P.23 参照)
- 2** シュータ方向調整ハンドルを操作し、投雪方向を調整します。(P.21 参照)
- 3** シュータデフレクタレバーを操作し、投雪距離を調整します。(P.21 参照)
- 4** エンジンを始動します。
- 5** アクセルレバーでエンジンの回転数を上げます。(P.22 参照)
- 6** 除雪クラッチレバーをゆっくり握るとオーガが回転します。(オーガが回転しない場合は P.42 参照)



警告



除雪クラッチレバー(デッドマンクラッチ機構)、除雪クラッチレバー(デッドマンクラッチ機構)を紐やクランプ等で固定することは絶対にお止めください。重大な事故に繋がります。

- 7** 変速レバーが「前進 1」にあることを確認し、走行クラッチレバーをゆっくり握ります。



- 8** 変速レバーで速度を変える場合は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーから手を放してから操作します。



注意

- 変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- 走行クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

ワンポイント

除雪作業は低速側で行うのがコツです。走行速度が速すぎると、オーガハウジングに雪がいっぱいになり、投雪が間に合わず雪が詰まってしまいます。

運転操作の仕方

ポイント

走行クラッチレバーと除雪クラッチレバーを同時に握ると、除雪クラッチレバーが一時的にロックされ、左手を放してもオーガは回り続けます。この機能を使用すると、左手で雪の排出方向や角度の調整操作が可能となります。オーガを停止するには、走行クラッチレバーを放すと、オーガの回転と走行機能の両方が停止します。



除雪作業の停止

注意

- 除雪機は、水平な場所に駐車してください。
- 作業終了後、除雪機に破損がないが確認し、破損が確認された場合は完全に修理してください。

1 変速レバーを「前進 1」にし、走行クラッチレバーから手を放します。

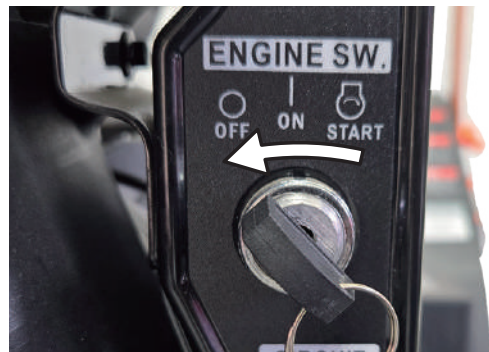
2 除雪クラッチレバーを握り、オーガを空転させ、オーガに付着した雪を排出させます。



3 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーから手を放します。走行とオーガの回転が停止します。



4 セルスターターを「OFF」の位置まで回します。



5 燃料コックを縦向き「OFF」にします。



注意

- 本体に付着した雪は取除いてください。
- 除雪作業終了後は、雨ざらしにしないでください。
- プロア部分に雪が付着したまま保管しますと、凍結してベルトの伸びや破損に繋がります。
- ワイヤ部分に雪が付着したまま保管するとワイヤの伸びや破損に繋がります。
- 屋外に保管しないでください。凍結、劣化により故障や本機の寿命を短くする恐れがあります。

運転操作の仕方

シュータに雪が詰まった場合



警告

- シュータに詰まった雪を除去する時は、エンジンを停止し、オーガの回転が止まってから、雪かき棒で雪を取除いてください。
- エンジンが回っている時は、シュータに手を絶対に入れないでください。怪我をする恐れがあります。

1 エンジンを停止させ、オーガの回転が完全に停止したことを確認します。

2 シュータ内に詰まった雪を雪かき棒で取除きます。
※詰まったまま使用すると、ベルトが伸びたり切れたりする可能性があります。



固い雪に除雪部が乗り上げた場合

前・後進を繰り返すことで、平らに除雪できます。

湿った雪を除雪する場合

湿った雪の場合は、シュータに雪が詰まりやすくなります。

積雪量が多い場合

積雪量が多く、オーガハウジングよりも雪の高さが高い場合は、段階的に除雪を行います。

オーガハウジングを少し上げたり、サイドカッターを使用したり (P.35 参照)、ソリの高さ調整したりします。

また、雪壁の切削量が多い場合は、シャーボルトが折れることがあるので、進入速度には注意が必要です。

除雪時に、エンジンの回転数が落ちた場合

1 エンジン回転が回復するまで、走行クラッチレバーを放します。



注意

- 変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを握ったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

2 オーガハウジング内の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら、走行クラッチレバーを握り前進します。

運転操作の仕方

ワンポイント

除雪作業は、普通に歩く速度より「ゆっくり」行うのがコツです。

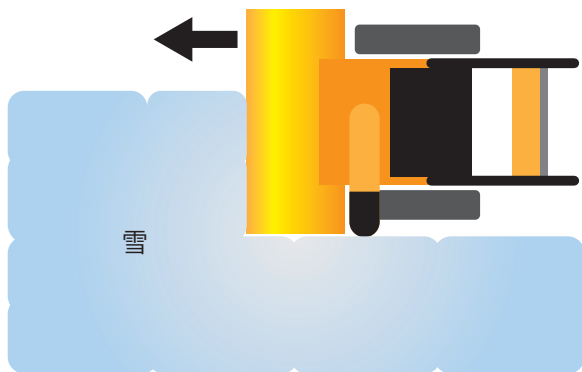
走行速度が速すぎると、雪がいっぱいになり、投雪が間に合わず雪が詰まってしまいます。

①詰まりそうになったら一旦後進し、また前進させます。これを繰り返すことで、雪を詰まらせずに除雪することができます。

②本機は水平に置いた時にオーガが接地する構造になっています。そのため、オーガの回転が除雪移動の補助となることも可能です。コツとしては、1～2cm程度前に傾け、路面にオーガを押し当てながら除雪作業をします。



③雪幅を狭くすると、除雪しやすくなります。



サイドカッターによる除雪の仕方

オーガを掻きとる雪の高さが限られているので、オーガハウジング部より更に高く積もった雪を除雪したい場合にサイドカッターを使用します。

1 左右のサイドカッターの下側のノブとボルトを外して、横にある穴にサイドカッターの穴を合わせてからノブとボルトで固定します。



⚠ 注意

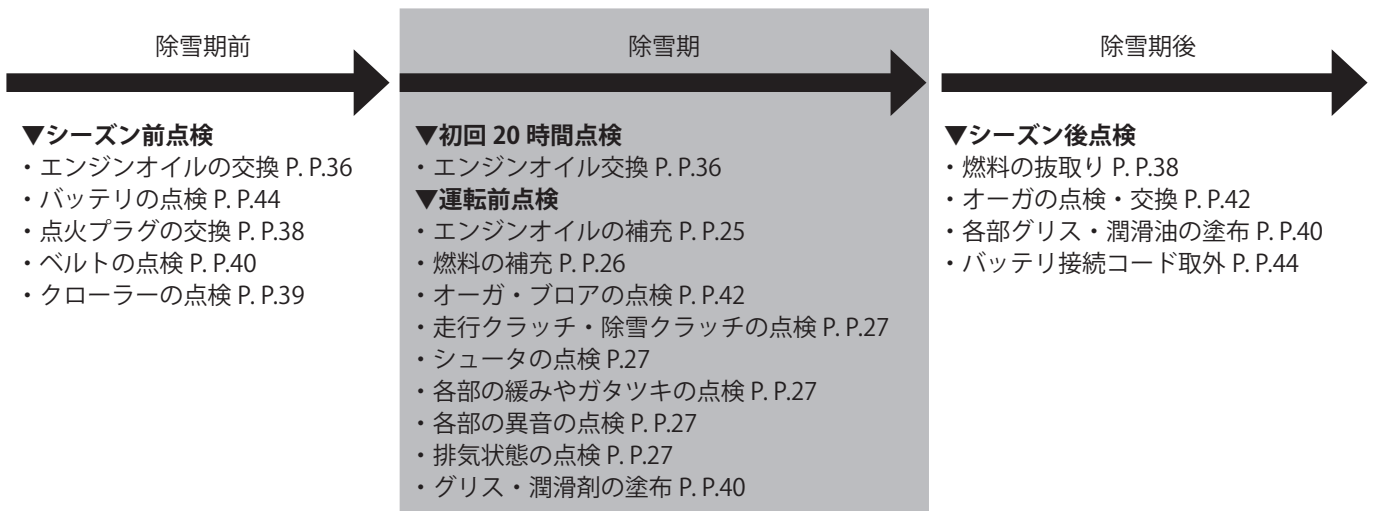
振動によりノブが緩んで外れて、紛失する可能性があります。定期的に緩みの確認をしてください。

2 壁際の雪を崩しながらゆっくり除雪します。



点検・整備の仕方

いつまでも安全にお使いいただくために定期点検を行ってください。



点検時期の目安

対象部品	点検項目	運転前の点検	初回の 1 ヶ月後又は 20 時間運転後	3 ヶ月毎又は 50 時間運転毎	6 ヶ月毎又は 100 時間運転毎	1 年毎又は 300 時間運転毎
燃料	ガソリン量、漏れ	●				
エンジンオイル	オイル量	●				
	交換		●	●		
点火プラグ	清掃				●	
	交換					●

警告

- 安全を確保し作業を行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので注意してください。

注意

- 作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管してください。

エンジンオイルの点検・交換

【エンジンオイルの交換】

初回 20 時間、以降 50 時間毎にエンジンが冷えた状態で行ってください。

■ エンジンオイル交換の手順

- 1 廃油受け、枕木や当て紙等を準備します。
- 2 本機をバッテリー側に傾けます。本体下に枕木等を挟み込むとオイルが流れやすくなります。

- 3 オイル給油キャップを緩め、ドレンボルトを取外してオイルを抜きます。



点検・整備の仕方

- 4** 13mm のスパナでドレン奥を固定しながら、10mm のスパナで反時計回りに回し緩めます。



- 5** 漏斗などをあてがい、廃油受けに流込むと本体を汚しません。



- 6** 排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締付けます。

- 7** 市販のオイルチェンジャーで抜くこともできます。
※操作方法は、オイルチェンジャーの取扱説明書に従ってください。



- 8** 市販のオイルジョッキや漏斗を用意します。

オイルジョッキ



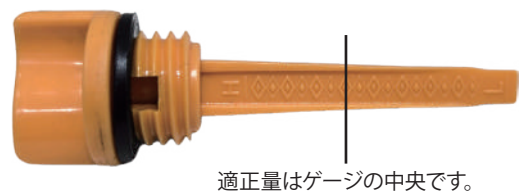
- 9** 新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央までゆっくり少しずつ入れます。



- 10** オイルがオイルゲージのオイル量範囲(中央)まであるか点検します。



下部オイル給油口ゲージの場合も中央までです。



適正量はゲージの中央です。

推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	1.1L

- 11** 給油後は、オイル給油キャップを確実に締めてください。

点検・整備の仕方

燃料の抜取り

- 1 燃料タンクのキャップとストレーナ(こし網)を取外し、燃料を手動のポンプ等で抜きます。



- 2 燃料コックを縦「OFF」にします。



- 3 燃料を受ける容器を用意します。

- 4 ○部分のボルトを緩めることでキャブレターの燃料を抜くことができます。



- 5 燃料を抜き終わったら、緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。

- 6 手順3～5を行わずにエンジンをかけ、ガス欠にする方法もあります。その際は、燃料キャップを閉めてください。

点火プラグの点検・整備

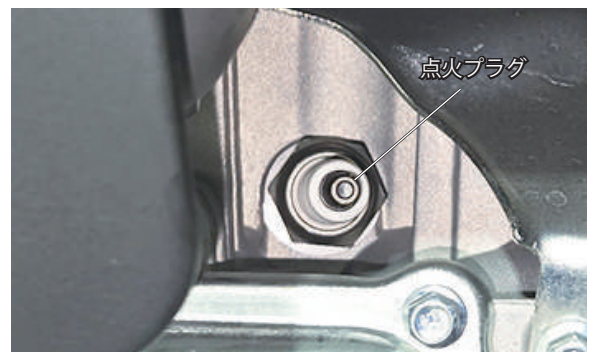
点火プラグを取外し、電極の点検・清掃を行います。
※エンジンが冷えている状態で行ってください。

- 使用工具：プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ
- 点検・清掃の仕方

- 1 金属の点火プラグキャップを持って引抜きます。
※コードを持って引抜かないでください。



- 2 点火プラグをプラグレンチで取外します。振動で緩まないように固めになっています。(反時計回り)



- 3 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。

点検・整備の仕方



交換時期	250 時間運転毎
適応 点火プラグ	BPR7ES(NGK)

4 取外しと反対の手順で取付けます。

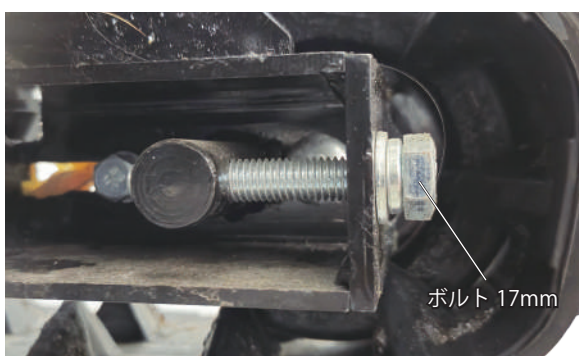
クローラーの点検・整備

クローラーの張り・傷・摩耗を点検します。

警告

回転部分の点検は、絶対にエンジンがかからないことを確認してから行ってください。また、軍手などの絡まりやすいものの着用は絶対避けてください。

1 クローラーの内側にあるアジャストボルト(17mm)を緩めるまたは締めることで張りの調整ができます。



注意

- クローラーは、張った状態で保管しますと亀裂が生じることがあります。長期間使用しない時は、必ずクローラーの張りを緩めてください。
- クローラーは、凍結していると張りの調整できません。凍結している場合は、調整をしないでください。

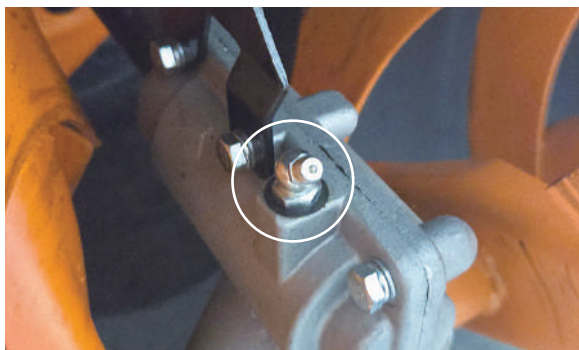
点検・整備の仕方

グリス・潤滑油の塗布

本機の使用後は回転部分・撻動部を清掃し、グリスを塗布します。可動部分は、潤滑油を塗布します。
※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。

1 グリス、グリスガンを準備します。

2 オーガ内のグリスニップル(頭径 6.5mm)にグリスを充填します。

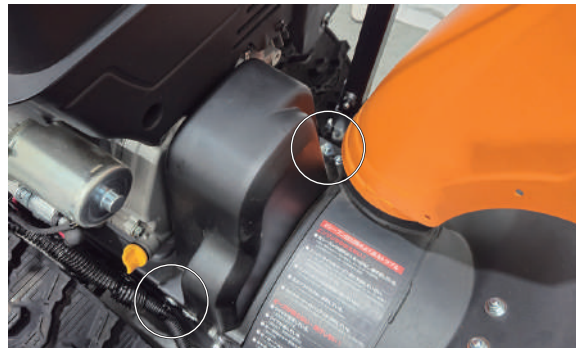


3 シュータの撻動部やワイヤ等の可動部に潤滑油やグリスを塗布します。

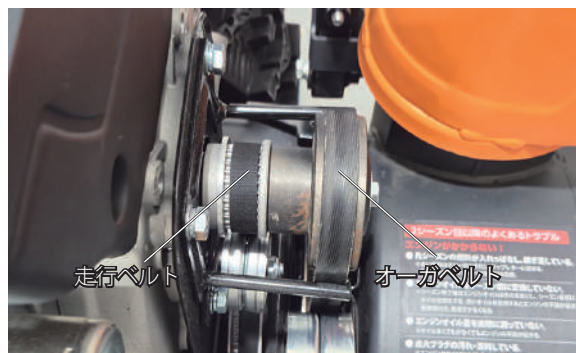


ベルト周りの点検

1 シュータ横の黒い樹脂製ベルトカバーの左右1カ所のボルトを取外し、カバーを取外します。



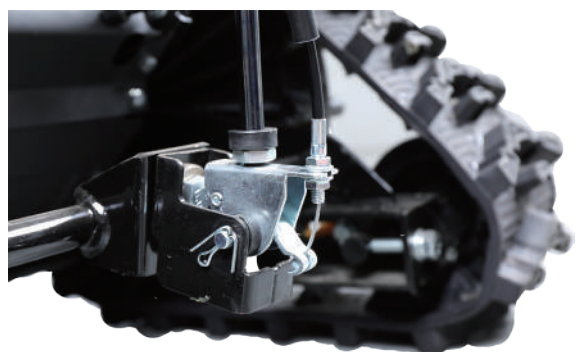
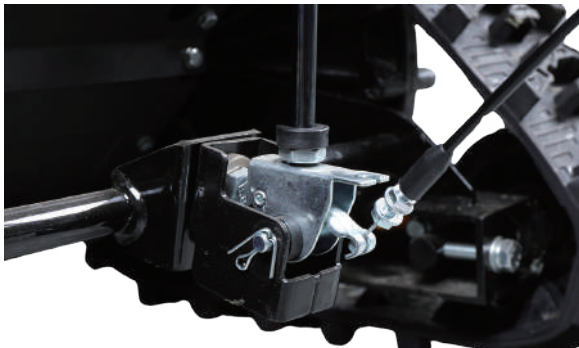
2 オーガベルト、走行ベルトに摩耗や亀裂がないか確認します。



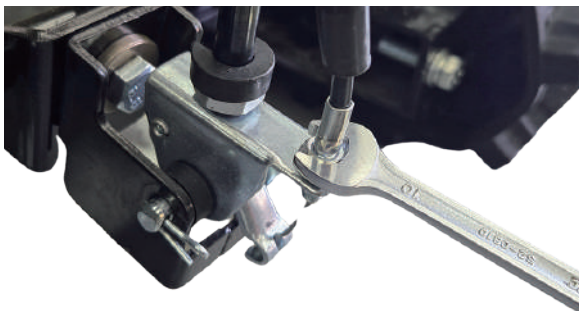
点検・整備の仕方

タイヤ・クローラー切替レバーのワイヤの張り調整

- 1 ゴムキャップを上にはずします。



- 2 タイヤ・クローラー切替レバーのワイヤの張りは、ワイヤ下部のナットを緩め調整します。



- 3 中間のワイヤのアジャスターでも調整ができます。

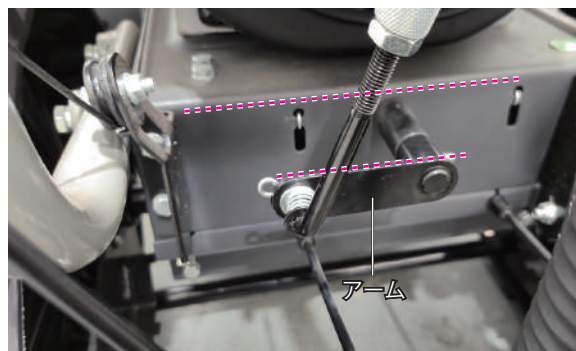


変速ロッドの調整

- 1 変速レバーを「前進 1」に合わせます。



- 2 本体下側のアームが水平になるよう変速ロッドの中間のナットを緩め調整します。



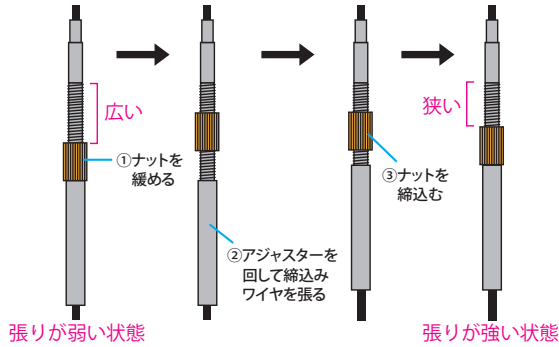
アーム



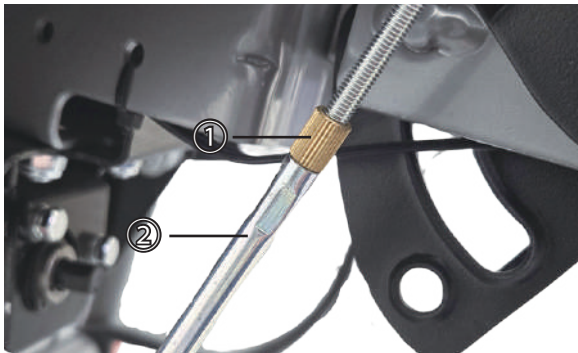
点検・整備の仕方

走行・除雪クラッチワイヤの張り調整

走行クラッチレバーを握っても走行しない、除雪クラッチレバーを握ってもオーガが回転しない場合は、ワイヤの張りを調整します。



- 1 ワイヤロッドのナット①を緩め、アジャスターの②を回すことで張りの調整ができます。(写真は除雪クラッチワイヤ)

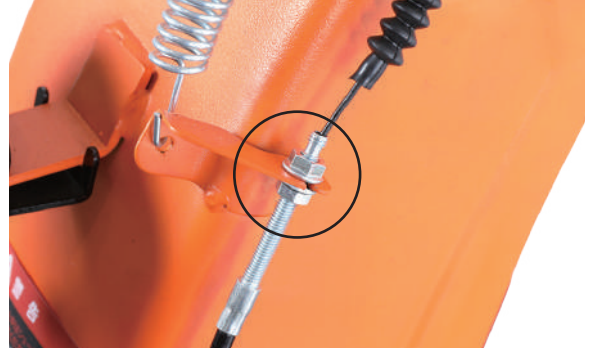


- 2 調整が完了したらナット①を締付けます。



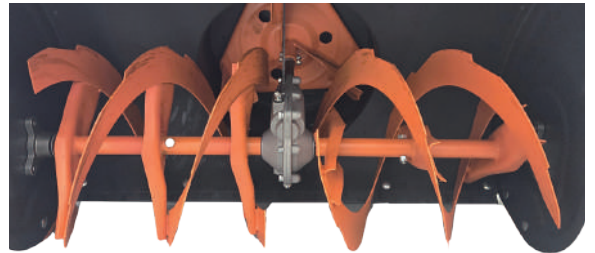
シュータデフレクタワイヤの張り調整

- 1 シュータデフレクタ部のナットを緩め、適正の張りになったらナットを締付けます。



オーガ・ブロアの点検

- 1 オーガ部分に破損や変形がないか確認します。



- 2 ブロア(奥の羽)部分に破損や変形、異物の挟込み、凍結がないか確認します。



点検・整備の仕方

シャーボルトの点検

- 1 エンジンを停止します。
- 2 雪が詰まっている時は雪かき棒で取除きます。
- 3 シャーボルトに折れや亀裂がないか確認します。
破損がある場合は新品と交換します。
交換は、シャーボルトを抜取ります。取付は逆の手順です。



⚠ 注意

シャーボルトは専用品をご使用ください。

👉 シャーボルトとは？

シャーボルトとは、オーガを固定しているボルトのことで、除雪中に石など硬いもの当ててしまった時に、その衝撃をギア部分まで伝達させず、損傷を与えないために、折れやすくしたボルトのことです。

点検・整備の仕方

警告

- バッテリーは引火性ガス（水素ガス）が発生し、取扱いを誤ると爆発し、怪我をする恐れがあります。
- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、火気を近づけないでください。爆発の恐れがあります。
- 落下などの強い衝撃を与えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付着した時はすぐに多量の水で洗い流してください。万一、目に入った時は、すぐに多量の水で洗い流し、医師に相談してください。
- 子供の手の届く所に置かないでください。

注意

- バッテリーは密閉式の 12V です。
- バッテリーは液入り充電済です。液の補充・点検は不要です。
- 充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。
- 長期間ご使用にならない時は、3 ヶ月ごとに充電してください。
- バッテリーを交換する時は、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

バッテリーの点検・充電・交換

- 1** バッテリーカバー横のボルトを、下のナットを固定しながら緩めます。



- 2** カバーをスライドさせるか、または下部を広げて取外します。



- 3** カバーからバッテリーを抜取ります。(少しきつくなっています。)



- 4** バッテリー端子との接続が、しっかり固定されているか点検をします。緩んでいる場合は、しっかり固定されるまでナットを締直します。

- 5** 腐食(白い粉・錆など)が見られる場合は、ワイヤブラシ等で取除きます。

- 6** バッテリーの取付けは、取外しと逆の手順で行います。

点検・整備の仕方

- 7 バッテリーを充電するには、自動車用のバッテリー充電器をご用意ください。充電方法は、バッテリー充電器の取扱説明書に従ってください。または、ガソリンスタンド等で充電をしてください。

⚠ 注意

密閉式バッテリーを充電するには、専用の充電器が必要です。

- 8 バッテリーのマイナスリード線（黒色配線）を取外します。次にプラスリード線を取外し、新品と交換します。この時、ショートしないよう十分ご注意ください。

バッテリーの保管

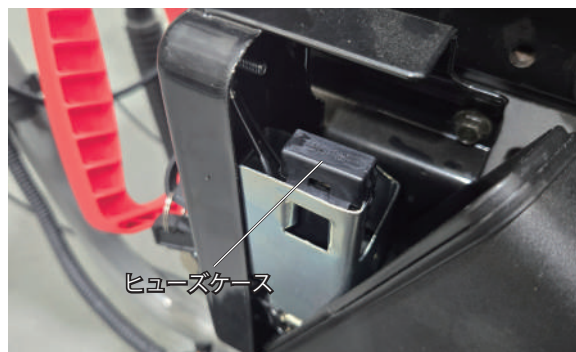
- 1 除雪期後は、バッテリーを満充電し、アース線を取外します。
- 2 除雪期前には、必ずバッテリーを充電し、バッテリーの状態を確認してからアース線を取付けます。
※廃バッテリーの処分方法は、各自治体にお問い合わせください。

⚠ 注意

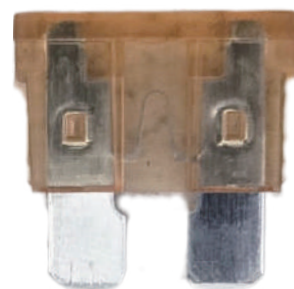
バッテリーは常に充電してください。放電した状態で保管しますと、バッテリー機能が回復できず、使用できなくなります。

ヒューズの交換

- 1 セルスターターボックスの裏のボルトをプラスドライバーで取外します。中にヒューズケースがあります。



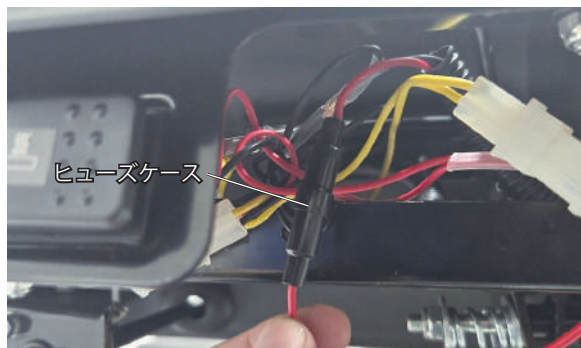
- 2 ヒューズケースの上部を上に向けて、中のヒューズ（7.5A）を抜いて新しいヒューズと交換します。



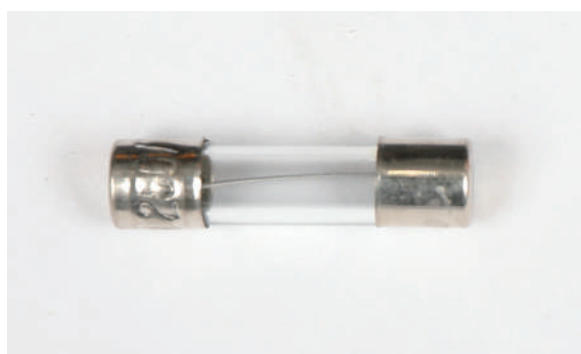
- 3 新しいヒューズを取外しと逆の手順で取付けます。

ヒートハンドルのヒューズの交換

- 1 操作パネル下にあるヒューズを見えるようにします。



- 2 ヒューズケースをひねる様に回して、中のヒューズ (10A) を抜いて新しいヒューズと交換します。



- 3 新しいヒューズを取外しと逆の手順で取付けます。

長期間使用しない時

除雪機を長期に渡り使用しない時は、次のお手入れを行ってください。

- 1** 保管する時は、平坦で堅い地面に水平に置てください。
- 2** 保管する時は、オーガハウジングを接地させてください。
- 3** 燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。
(P.38 参照)
- 4** エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。
- 5** 緊急停止キー（セーフティーキー）を抜いてください。
- 6** 各部の汚れを落とし、水分が残らないよう、きれいに清掃します。
- 7** バッテリーを満充電し、アース線を取外します。
(P.44 参照)
- 8** 各部のボルト類の破損、腐食、緩みを点検します。
- 9** 防錆、潤滑油を塗布します。
- 10** 湿気の少ない換気の良い場所に保管してください。

故障かな？と思ったら

●エンジン関連

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	始動スイッチボタンの不良	交換
	点火プラグ不良	交換 (P.38 参照)
	点火プラグ・キャップ接続不良	確実に接続
	エンジンオイルが少ない	オイル追加 (P.25 参照)
キャブレターに燃料が来ていない	燃料が入っていない	燃料を入れる (P.26 参照)
	燃料コックが閉じている	コックを開く
	燃料タンクの錆び又は、異物混入による詰まり	交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレター詰まり (ニードル・バルブ固着)	キャブレター分解掃除
エンジンがかからない	エンジンオイルの入れすぎ	オイル交換 (P.36 参照)
	エンジンオイルにガソリンが混ざっている	オイル交換 (P.36 参照)
エンジンはかかるが、すぐ停止したり、停止しそうになる	キャブレター内部の汚れ、詰まり	清掃又は交換
Vベルトがキュキュッと音がする	Vベルトの緩み	張り調整 (P.40 参照)
	Vベルトの摩耗	交換
	オーガハウジングに雪が付着、堆積している	付着した雪を雪かき棒で落とす
セルが回らない	バッテリーが上がっている	交換
	バッテリー端子が外れている	正しく接続 (P.44 参照)
	ヒューズが切れている	交換 (P.45 参照)
セルを回すとギィギィ音がする	バッテリーの充電不足	バッテリーを充電する (P.44 参照)

●走行関連

症状	原因	対処
前進または、後進しない	変速輪クッションが磨耗、亀裂がある	変速輪クッション交換
	走行ベルトが磨耗、亀裂、破損	走行ベルト交換
	走行ワイヤ破損	走行ワイヤ交換
	オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整 (P.23 参照)
	ワイヤーの張りが弱い	ワイヤー調整
進みにくい	オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整 (P.23 参照)

故障かな？と思ったら

●除雪作業関連

症状	原因	対処
シュータから雪が出ない	シュータに雪が詰まっている	詰まった雪を雪かき棒で落とす
すぐ雪が詰まる	除雪速度（走行速度）が速すぎる	低速でゆっくり除雪をする（P.37 ワンポイントを参照）
雪を集められない	オーガに雪が付着している	付着した雪を雪かき棒で落とす
オーガが回転しない	シャーボルトが折れている	シャーボルト交換（P.43 参照）
	オーガベルトが切れている	ベルトの交換（P.40 参照）
	Vベルトが緩んでいる	ワイヤーの張り調整
	凍結している	氷を除去する
雪の飛びが悪い	シャーボルトが折れている	シャーボルト交換（P.43 参照）
	オーガワイヤーの調整不足	ワイヤ調整（P.42 参照）
固い雪に乗り上げて 食い込まない	オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整（P.23 参照）
	シャーボルトが折れている	シャーボルト交換（P.43 参照）
オーガが路面に当たる	オーガの高さが適正でない	ソリの高さ調整（P.23 参照）
フロアから「コンコン」と音がする	フロアの変形によりオーガハウジングに接触している	エンジンを切り、バール等で修正
	フロアとオーガハウジングの隙間に石などの異物が挟まっている	エンジンを切り、雪かき棒で異物を取除く

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

本規約は、ハイガー(以下「弊社」とする)を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日(ご来店引取の場合ご来店日)から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。(以下、この無料修理を「保証修理」とする)往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象(退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等)
- (11) 機能的影響のない感覚的な現象(音、振動、オイルのにじみ等)
- (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
- (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品(ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャープン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等)
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填(休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等)

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡ください。
またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。
症状・使用状況を伺いし、お手順方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- ・無在庫転売者(送り先が毎回違う購入者)の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

- アフターサービスについて■
1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
 2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
 3. 保証期間(1年間)を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
 4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
 5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

お客様ご相談窓口

故障部品をお客様で交換される場合

まず、ご購入された店舗にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールでご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

④送料お客様ご負担で、代替部品を発送致します。

ハイガーまたは販売・修理店

②受付
③故障内容の確認

故障部品をメーカーで修理する場合

弊社にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールまたはお電話でご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

②送料お客様ご負担で故障装置を発送してください。

ハイガー

③受付
④故障内容の確認
⑥お見積り了承
⑦故障装置の修理

⑤お見積り提示。

⑧送料お客様ご負担で、故障装置を発送いたします。

故障部品を販売・修理店で修理する場合

まず、ご購入された販売・修理店にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。
遠方の場合の出張修理や引取り修理は、別途料金が発生致します。

お客様

①故障の状況をメールでご連絡ください。その際、持ち込み修理^{*1}か、引取り修理^{*2}か、出張修理^{*3}かを相談させていただきます。

⑤持ち込み修理の場合、修理完了後ご来店ください。引取り修理の場合は、修理完了後お届け致します。
※ご希望に応じて相談させていただきます。

販売・修理店

②受付 ③故障内容の確認 ④故障装置の修理
^{*1}お客様ご自身が販売・修理店に製品を持ち込むことをいいます。
^{*2}販売・修理店がお客様のご自宅まで製品を引き取りに行くことをいいます。
^{*3}販売・修理店がお客様のご自宅まで行き、その場で修理を行うことをいいます。

修理、部品に関するご相談

修理依頼される時は、下記を事項ご連絡ください。

- | | | |
|--------|------------|-------|
| ①ご注文番号 | ④故障の状況 | ⑦ご住所 |
| ②商品名 | ⑤購入サイト、年月日 | ⑧電話番号 |
| ③商品の型番 | ⑥お名前 | |

修理、使い方などのご連絡窓口

お手数ですが、今一度本取扱説明書を熟読し、弊社のサイトや動画等を見ていただき、問題が解決しない場合は、下記までお問い合わせください。

●お問い合わせ先：下記カスタマー・サポート・センター

販売・修理店

販売・修理店は随時増えています。販売・修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

本店サイト ▶ <https://www.haigeshop.net/html/page3.html>

楽天サイト ▶ <https://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/support/repair/shop/>

ヤフーサイト ▶ <https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

※ハイガーは、顧客満足度100%を目指し、日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行っています。

そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

また、取扱説明書は、製品製造時の最新版を同梱していますが、内容は随時改訂していますので、最新版は以下のサイトよりご確認ください。

「製品のお困り事」は、カスタマー・サポート・センターへ。

「製品が利用できない」、「故障かな?」、「修理をしたい」、「パーツを購入したい」など、下記カスタマー・サポート・センターへ、お問い合わせください。

HAIGE

〒370-0603
群馬県邑楽郡邑楽町中野5298-1

ハイガーオフィシャル 検索

<https://haige.jp/>



年中無休受付

※年末年始等除く



カスタマー・サポート・センターお問い合わせ窓口

<https://haige.jp/c/>

